

十勝～帯広地区 歴史探訪コース 参加者募集

<6月27日～28日は、マサチューセッツ州からの訪問団来札予定のため、日程変更となりました>

日 時	平成 27 年 7 月 11 日 (土)～12 日 (日) <日程変更> 8:00 出発 ～ <1泊2日バスツアー>
コース	1 日目 ＝ 札幌駅北口出発～(高速道路)～(トマム)～ (十勝清水 IC)～ 外国人甜菜農家コッホの家 — 昼食 (有名蕎麦店・そば「韋駄天」) — R38号線— (日本甜菜製糖工場・芽室製糖所) — (帯広)北海道製糖株式会社・ビート資料館 — (トテッポ通り)～(緑ヶ丘公園)帯広百年記念館・中城ふみ子歌碑・十勝監獄跡・石油庫跡 — 帯広市立図書館(中城ふみ子コーナー) — ホテル宿泊 2 日目 ＝ 帯広神社—中島公園(依田晩三銅像)—帯広発祥の地 —渡辺勝・カネ入植記念碑—(音更)柳月スイートピアガーデン—昼食(六花亭本店)—六花の森— (中札内 IC) — (高速道路)～(サビスア7)～札幌帰着
参加費	30,000 円 (マイクロバス全行程交通費、昼食代、入館料、資料代・写真代など)

- ★十勝・帯広(オホリパリ)の歴史：古くは松前藩からの弁財船がやってきて、アイヌの海産物・毛皮類と米・塩・衣類・嗜好品などとの交易を行っています。近代になって十勝の開拓は、1883年(明治16年)5月、依田勉三(1853-1925)率いる晩成社移民団13戸27名が最初に現在の帯広の地に入植してから本格化します。長年干ばつ・冷害やバッタの大群の襲来などとの戦いがつづきます。その後、各府県から移民団が入植します。十勝地区は、寒冷地のため、本州の稲作中心の農業ではなく畑作農業を基盤として発展していきます。
- ★十勝監獄の歴史：北海道の集治監は、ロシア南下政策に対抗するため開拓を急務とした明治政府が、樺戸(月形町1881・明14)、空知(三笠市1882・明15)、釧路(標茶町1885・明18)―網走分監(1891・明24)を設置し、囚人の労働力を開拓に利用しました。釧路分監の囚人によって1893年(明26)、大津―帯広―芽室を結ぶ「大津街道」が作られます。1895年(明28)十勝分監(十勝監獄)が設置されて、当時人口300人ほどの帯広に、囚人1,300人と職員200人の分監ができたことにより、帯広村の市街地は急速に発展したといわれます。
- ★二宮尊親と興復社＝牛首別(現豊頃町)の歴史：二宮尊親は、祖父二宮尊徳の報徳思想を実践する開拓結社「興復社」を率いて、1897年(明30)牛首別原野に入植して10年間で約850ヘクタールを開墾。福島県相馬地方から移住した小作人を、土地を持つ自作農に育て、十勝地区の農業・教育に大きな足跡を残しています。
- ★関寛斎と積善社＝斗満(現陸別町)の歴史：関寛斎(1830―1912)は、長崎で西洋医学を学び、徳島藩医となり、幕末の戊辰戦争では官軍の医師として従軍。後、徳島病院長・山梨病院長などを歴任。1873年(明6)徳島の町医者となります。1902年(明35)72歳で、北海道開拓を志し、四男又一とともに斗満(現陸別町)に入植、4,000ヘクタールを超える広大な土地を開墾します。二宮尊親の影響を受けて、積善社を設立し、広大な農場のほとんどを小作人に解放しています。
- ★日本甜菜糖・芽室製糖所：1880年(明13)わが国最初の官営甜菜製糖工場＝北海道糖業道南製糖所(伊達市)。1919年(大8)北海道製糖(帯広市)として設立。現在、東洋一の規模を誇る生産量。→[すずらん印の砂糖]

北海道・マサチューセッツ協会 (中垣正史事務所) TEL 080-1861-8345 FAX (011) 300-9136

参加申し込みは、お早めに → **FAX 011-300-9136** (切り取らずに)

2015(平成27年度) 十勝～帯広 歴史探訪コース 参加申込書

フリガナ 氏名	男・女	年齢
住所	職業(学校名)	
TEL	FAX	

* 申込時に、参加費 30,000円を、下記(振込先)「北海道・マサチューセッツ協会」口座にお振込みください。
 (振込先) 北洋銀行 道庁支店(普通) 3031226 北海道銀行 道庁支店(普通) 0545916